

ガス・石油機器の待機時消費電力の低減について

2007年6月

ガス・石油機器はガスや石油（灯油）燃料の他，機器制御のため電力も消費しています。この電力は，機器を使用しているときはもちろん，機器を使用していないときも安全監視などのために必要なものです。

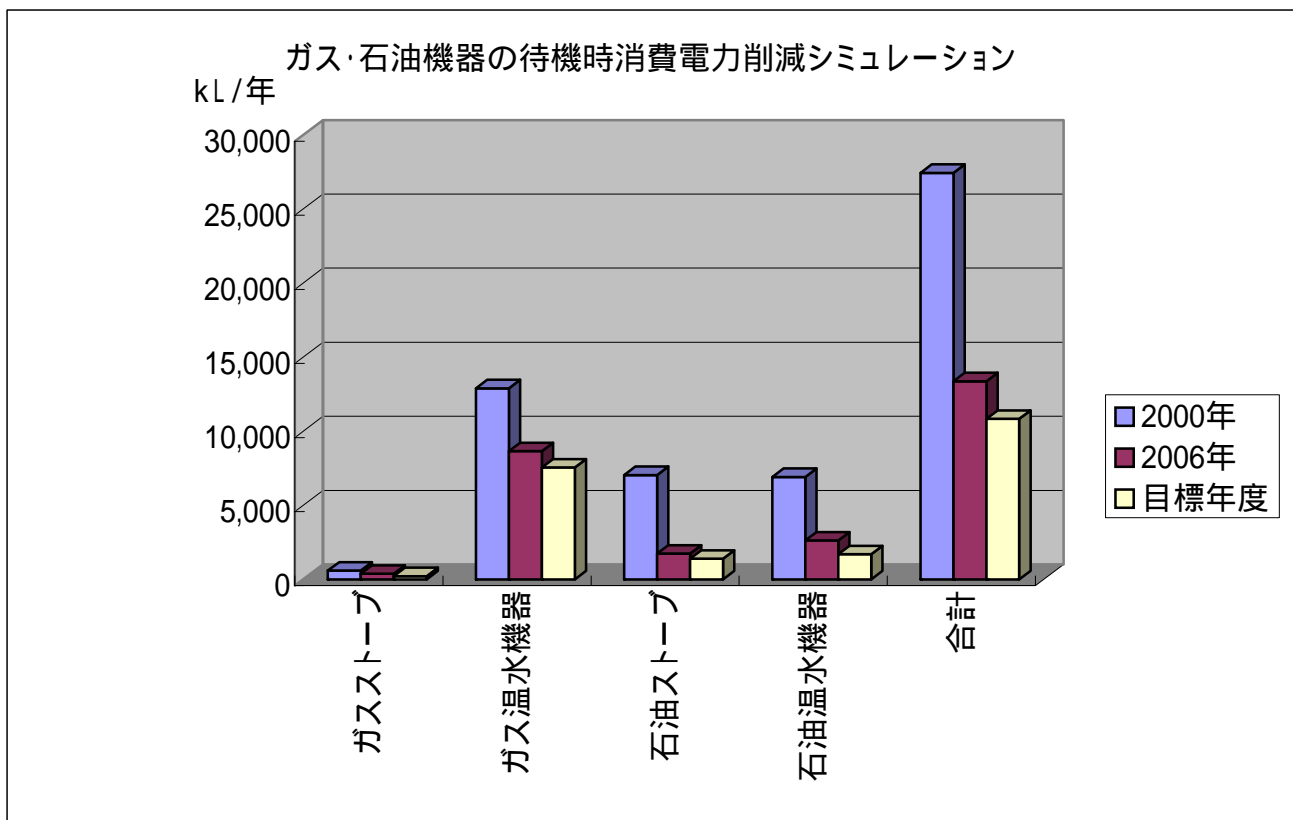
私たちガス・石油機器メーカー各社は，よりエネルギー消費効率（ガス・石油エネルギー）の高い機器を開発するとともにこの待機時消費電力の低減についても積極的に取り組んでいます。

ガス・石油機器の待機時消費電力は，2000年度時点では原油換算量で約27,000 k L /年でしたが，機器毎に業界目標値を設定し，より待機時消費電力の低い機器を開発した結果，2006年度時点では約13,000 k L /年に低減しています。

2008年度には，主要な家庭用ガス・石油機器の全てがこの目標値を達成するよう努力していきます。

	[kL/年]		
	2000年	2006年	目標年度 (2008年度)
ガストーブ	591	376	211
ガス温水機器	12,893	8,648	7,547
石油ストーブ	7,044	1,731	1,384
石油温水機器	6,904	2,619	1,687
合計	27,431	13,373	10,829

(注)



本資料は各区分の1台あたりの待機時消費電力に待機時間，出荷台数(2000年ベース)及び原油換算係数をかけたものを積算し品目毎に算出した原油量を示している。

【各区分の待機時消費電力原油換算量の計算例】

待機時消費電力原油換算量[kL/年]=平均待機時消費電力[W/台]*(365*24-年稼働時間)[h/年]*(1/1000)[kW/W]

*2000年(度)出荷台数[台]*原油換算係数(0.0930 × 10⁻³kl/kWh)

出荷台数...2001(H13)年に行われたガス・石油機器判断基準小委員会(省エネ対策課)データ(2000年ベース)をベースとした。

- ・2000年値...2002(H14)年に行われた待機時消費電力調査データから算出した。
- ・2006年値...2006(H18)年に行われた待機時消費電力調査データを活用し算出した。
- ・目標年度...各機器の待機時消費電力目標値に2000年出荷台数を各々かけて算出した。

(注)石油温水機器の目標年度の待機時消費電力について，2003(H15)に設定した数値を自主宣言の目標値に基づき修正した。
(石油小型給湯機:35W 3W,石油給湯機付ふるがま:36W 4W)